



196分の10



私は浄水場で働いています。毎年近隣の小学校から

四年生が社会科見学に来てくれます。水道水がで
きるまでを浄水場内をぐるりと45分ほど回って説
明します。最初に行くのは着水池です。消毒と凝集
剤を添加し、泥やゴミを沈殿させ、濾過をしてきれ
いな飲料水になります。子どもたちは目をキラキラ
させながら、濁った水からきれいな水になるのを観
察しています。この仕事は私の一番好きな仕事です。
最後は子どもたちからの質問をクイズ形式にして
楽しく終わります。そしてクイズ大会の時に必ず最
後に出す問題があります。

「世界には196の国があります。さて蛇口をひ
ねってそのまま飲む国は何か国でしょうか？」

「正解は、アイスランド・アイルランド・スロベ
ニア・デンマーク・ドイツ・フィンランド・ノルウ

ギー・オーストリア・南アフリカ、そして日本の
10カ国です。」

子どもたちも先生もみんな10カ国しかないと
にビックリです。そして、よく知っている大国とい
われる国がないことにも驚きます。

日本では、水道法という厳格な法律で安全で低廉
な水道水は守られてきましたが、2019年に改悪
され、民営化が可能になってきました。行政は営利
を目的とせず、住民に安心して幸せな生活を送って
もらうのが仕事です。それを、営利を追求すること
が目的の企業に売り渡すのですから、簡単にいえば
行政の仕事放棄です。

私たちは水道民営化に徹底的に反対し、196分
の9にさせないようにしていかなければなりません。

労働大学企画編集委員 吉田 英和